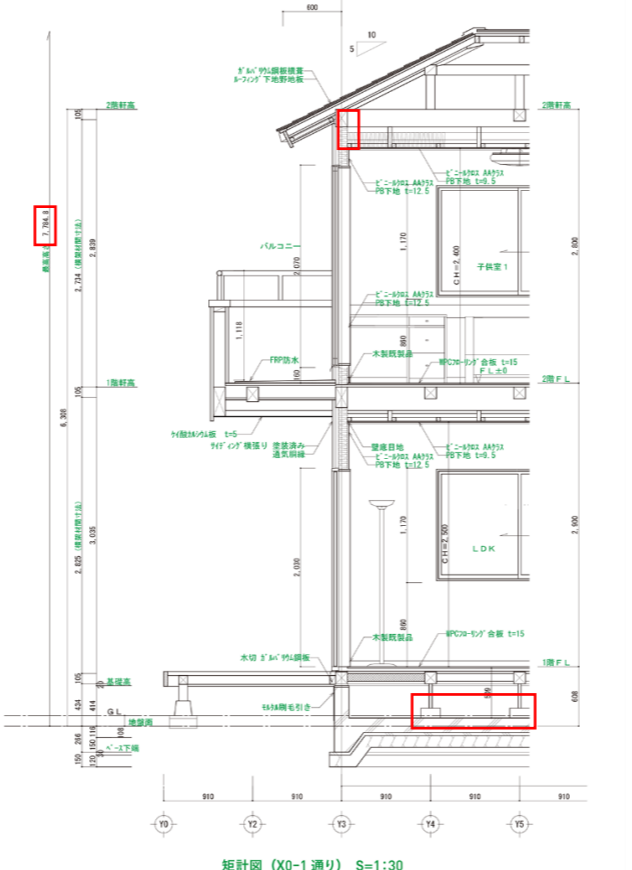
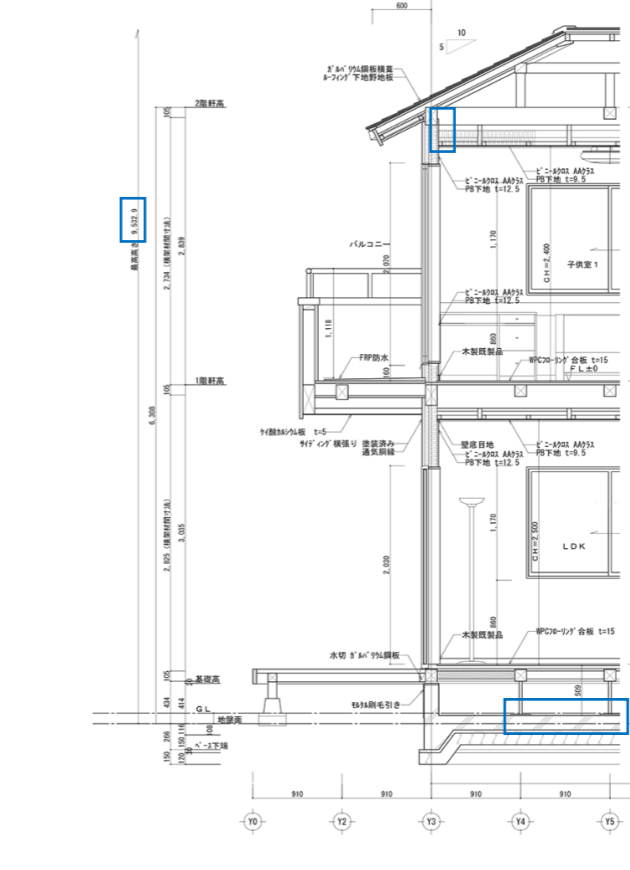
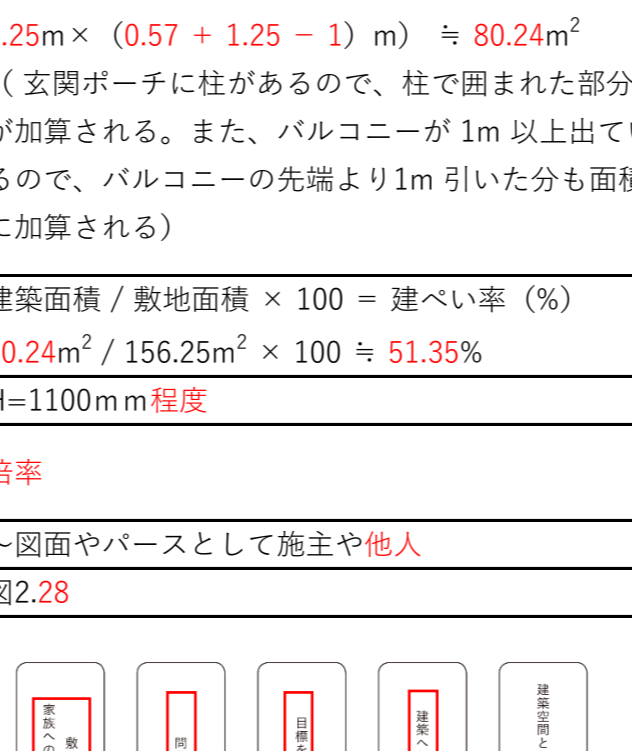
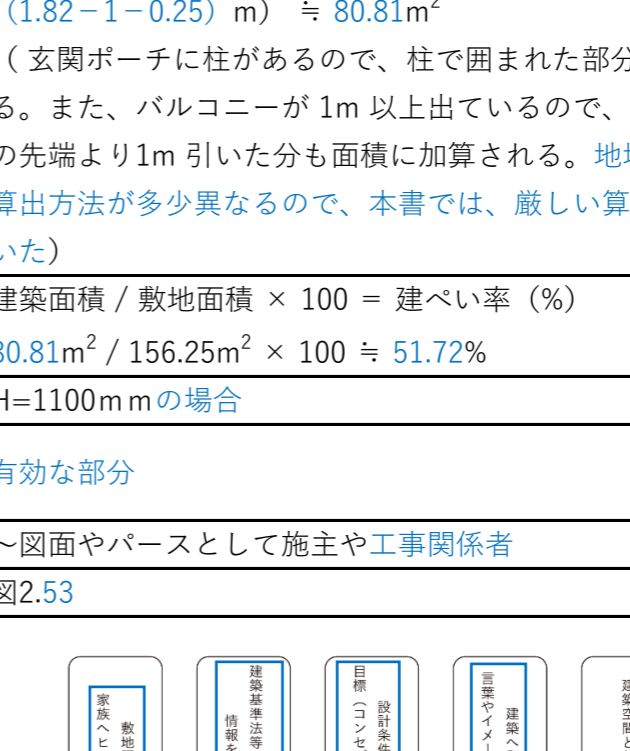
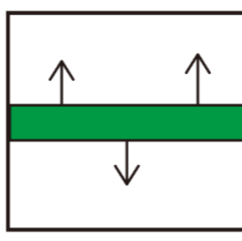
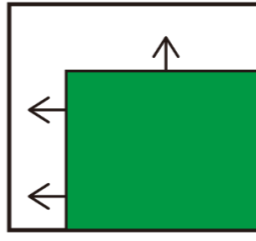
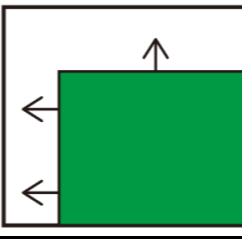
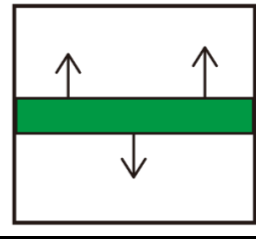
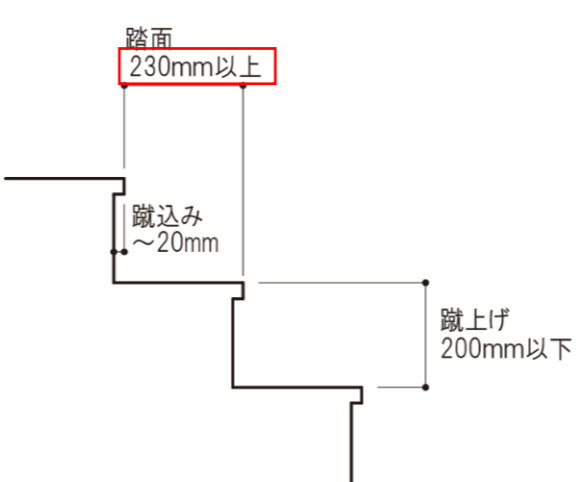
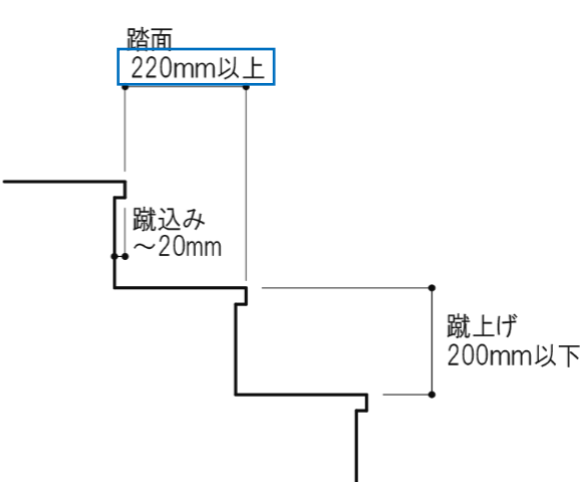
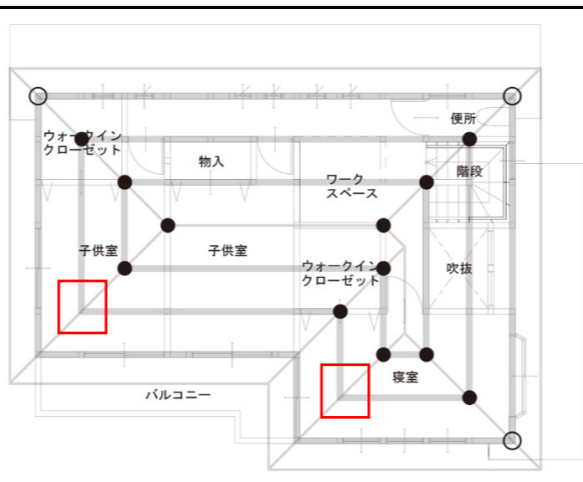
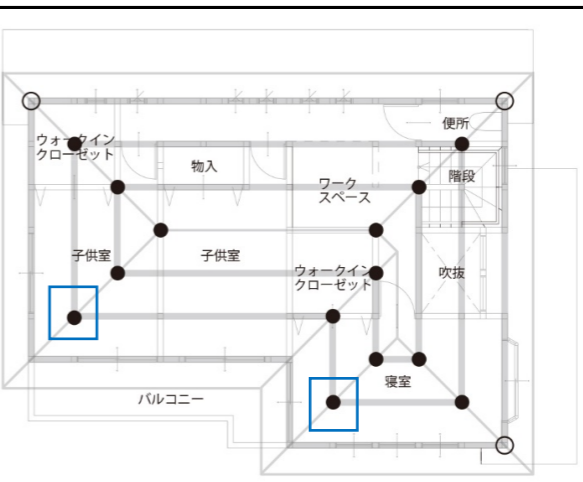


該当ページ	該当箇所	誤	正
p.21	図1.10モデル住宅	矩形図	矩計図
p.21	図1.10モデル住宅 矩計図	 <p>矩計図 (X0-1 通り) S=1:30</p>	 <p>矩計図 (X0-1 通り) S=1:30</p>
p.22	図1.11モデル住宅	矩形図	矩計図
p.22	図1.11モデル住宅 矩計図	 <p>矩計図 (X0-1 通り) S=1:30</p>	 <p>矩計図 (X0-1 通り) S=1:30</p>
p.27	「2.1 敷地調査 ①安全であること」行末	～も十分に考慮する (写真 2.1～2.3)。	～も十分に考慮する (写真 2.1～2.3)。各市町村では、ハザードマップ (被害予想地図) をつくっているのを確認すると良い。
p.57	例題 ①建ぺい率 建築面積	$(5.46\text{m} \times 6.37\text{m}) + (5.46\text{m} \times 8.19\text{m}) + (1.27\text{m} \times 5.46\text{m}) + (4.46\text{m} \times (1.25 - 1)\text{m}) + 0.25\text{m} \times (0.57 + 1.25 - 1)\text{m} \approx 80.24\text{m}^2$ <p>(玄関ポーチに柱があるので、柱で囲まれた部分が加算される。また、バルコニーが1m以上出ているので、バルコニーの先端より1m引いた分も面積に加算される)</p>	$(5.46\text{m} \times 6.37\text{m}) + (4.55\text{m} \times 8.19\text{m}) + (1.27\text{m} \times 5.46\text{m}) + ((5.46 - 1)\text{m} \times (1.25 - 1)\text{m}) + 1.25\text{m} \times (1.82 - 1 - 0.25)\text{m} \approx 80.81\text{m}^2$ <p>(玄関ポーチに柱があるので、柱で囲まれた部分が加算される。また、バルコニーが1m以上出ているので、バルコニーの先端より1m引いた分も面積に加算される。地域によっては算出方法が多少異なるので、本書では、厳しい算出方法を用いた)</p>
p.57	例題 ①建ぺい率 建ぺい率	$\text{建築面積} / \text{敷地面積} \times 100 = \text{建ぺい率} (\%)$ $80.24\text{m}^2 / 156.25\text{m}^2 \times 100 \approx 51.35\%$	$\text{建築面積} / \text{敷地面積} \times 100 = \text{建ぺい率} (\%)$ $80.81\text{m}^2 / 156.25\text{m}^2 \times 100 \approx 51.72\%$
p.63	Point 「バルコニーの取扱い」最終行	H=1100mm程度	H=1100mmの場合
p.72	「表2.13 窓の形状と有効な部分」左1列2行目の項目名	倍率	有効な部分
p.78	「④建築空間として具現化する」5行目	～図面やパースとして施主や他人	～図面やパースとして施主や工事関係者
p.78	「図2.28 コンセプトから設計へ」	図2.28	図2.53
p.78	「図2.28 コンセプトから設計へ」	<p>調査や分析によるコンセプトの発見 → 建築計画・設計でコンセプトを発展・具現化する</p>	<p>調査や分析によりコンセプトを発見 (設定) する → 建築計画・設計でコンセプトを発展・具現化する</p>

p.93	コラム「空間のシーケンス (sequence)」4行目から最終行	～空間から受ける感情と、門をくぐり、庭を眺めながらアプローチを歩き時間を経て玄関に入ったときの空間から受ける感情は、同じ玄関でも受ける感じ方が異なる。 豊かな空間のシーケンス (つながり) をつくるのが建築設計に要求されており、シーケンスの作り方が、設計評価に大きな影響を与える。設計の評価者も、図面を見て仮想空間の中に自身を疑似投影し、そこから受ける感情で設計作品を評価している。	～空間から受ける感じ方と、門をくぐり、庭を眺めながらアプローチを歩き時間を経て玄関に入ったときの空間から受ける感じ方は、同じ玄関でも受ける感じ方が異なる。 豊かな空間のシーケンス (つながり) をつくるのが建築設計に要求されており、シーケンスの作り方が、設計評価に大きな影響を与える。設計の評価者も、図面を見て仮想空間の中に自身を疑似投影し、機能や動線のほかに、そこから受ける感じ方で設計作品を評価している。
p.105	「図3.40 ワンルーム・リビング中心型」		
p.106	「図3.42 中廊下型」		
p.116	「概要」9行目	近年は、高気密高断熱の住宅が増えた。その場合は、換気経路を明確にしておくことが必要不可欠となるが、一般的な住宅の場合は、通風も重要である。	近年は、高断熱高気密の住宅が増えた。その場合は、換気経路を明確にしておくことが必要不可欠となるが、通風も重要である。
p.117	「3 通風のとりかた」1行目	住宅の省エネルギーを実現するためには、パッシブ換気として (電力を使わない換気) 通風	住宅の省エネルギーを実現するためには、通風
p.123	「3 キッチン」左段7行目	～一緒に吸気口 (建築確認地にもチェックされる)～	～一緒に吸気口 (建築確認時にもチェックされる)～
p.123	「3 キッチン」左段下から3行目	～火器を使用するために動線を短くし不燃材料を～	～火器を使用するために不燃材料を～
p.123	「3 キッチン」右段1行目	～最新の注意を～	～細心の注意を～
p.125	右段5行目	～このような大きなL.D.K.を配置することができにくく、～	～このような大きなL.D.K.を配置することができにくく、～
p.127	「1 夫婦室」右段3行目	～自然の通風により～	～自然の換気により～
p.135	左段4行目	内開きにする場合、ブースの上部を空ける。	内開きにする場合、倒れたときの救助のため、ブースの上部を空ける。
p.142	左段下から1行目	～踏面を230mm以上と～	～踏面を220mm以上と～
p.142	「図4.30 蹴上と踏面の寸法」踏面数値	230mm 	220mm 
p.150	「⑤ガラスの種類」右段15行目	i) 単板ガラス (最も一般的なガラス)	i) 単板ガラス
p.160	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」左段3行目	図5.8	図5.9
p.160	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」左段下から3行目	図5.9	図5.10
p.160	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」左段下から1行目	図5.10	図5.11
p.160	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」右段2行目	図5.11	図5.12
p.160	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」右段9行目	図5.12	図5.13
p.161	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」左段4行目	図5.13	図5.14
p.161	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」右段6行目	図5.14	図5.15
p.162	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」左段3行目	図5.15	図5.16
p.162	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」右段2行目	図5.16	図5.17
p.162	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」右段4行目	図5.17	図5.18
p.162	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」右段6行目	図5.18	図5.19
p.162	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」図5.16	 図5.16 小屋束	 図5.16 小屋束
p.163	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」左段4行目	図5.19	図5.20
p.163	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」左段下から4行目	図5.20	図5.21
p.163	「5.2 小屋組み (寄棟) の計画」左段下から1行目	図5.21	図5.22
p.166	「5.3 2階床組みの計画」右段9行目	図5.29	図5.29、写真5.4

p.166	「5.3 2階床組みの計画」右段下から1行目	図5.31	写真5.5、図5.31
p.168	「図5.33 2階床梁と胴差の断面寸法」伏図		床梁の上の通り芯を抜いた
p.170	「図5.39 土台の継手位置」図面		
p.170	課題 ※Point内容修正	<p>[2階床伏図] 設計する住宅の2階床伏図を作成しよう。</p> <p>[Point]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①部屋の配置を基に平面を大きな区画に分割する。 ②壁があるところには、必ず2階床梁を配置する。 ③四隅を通し柱とし、その他の柱は管柱とする。 ④片持ちのバルコニーを設ける場合は、持ち出し梁にする。 ⑤短辺方向に梁を架けることを基本とする。 ⑥一般的な梁のスパン(梁を支える柱の間隔)は、5P以下にする。それ以上スパンが大きくなる場合は、1階のプラン変更を検討する。 ⑦梁の上に乗る柱も考慮に入れる。 ⑧梁を架けるのは二次梁までにする。 ⑨梁成が330mmを超える場合は、天井高や階高も再検討する。 ⑩根太レス工法の場合は、梁(大梁と小梁により)を1P以下の間隔で配置する。 ⑪上記のルールで梁を架けられない場合は、柱を追加する事を検討する。柱を追加する場所(壁など)が無い場合は、プラン変更を検討する。 	<p>[1階床伏図] 設計する住宅の1階床伏図を作成しよう。</p> <p>[Point]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①部屋の配置を基に平面を大きな区画に分割する。 ②壁の下には、必ず土台を配置する。 ③短辺方向に大引きを架けることを基本とする。 ④床束の間隔は、1P以下になるように配置する。 ⑤根太レス工法の場合は、大引きと根太を1P以下の間隔で配置する。 ⑥風呂や玄関土間には、大引きや床束を配置しない。 ⑦キッチンなどに床下メンテナンスのための点検口を配置する。
p.171	「図5.40 1階床伏図」図面		
p.173	「課題」1行目	設計する住宅の2階床伏図を作成しよう。	設計する住宅の基礎伏図を作成しよう。
p.204	右段 上から2行目	参考文献1	参考文献5
p.237	「1 エアコンの選定」左段5行目	たとえば、ダイキンでは、～	主なメーカーでは、～
p.237	「1 エアコンの選定」右段下から4行目	エアコンの操作は、付属のリモコンのできるので、使用時はエアコンの構成を特に意識する必要はない。	※削除
p.238	「3 冷媒配管・ドレン管」右段 上から2行目	貫通部の隙間は紙粘土など～	貫通部の隙間はバテなど～
p.242	参考文献5)	一般社団法人 木を活かす建築推進協議会: 平成25年省エネルギー基準対応 住宅省エネルギー技術 設計者講習テキスト、2015	一般社団法人 木を活かす建築推進協議会: 平成28年省エネルギー基準対応 住宅省エネルギー技術 設計者講習テキスト、2016